

学科	理容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	法律が理容業・理容師とどう関わるのか、具体的事例を通じて学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」法律にこう規定されているのか、自ら考える力をつけることを意識し、社会に出た際に直面する問題にも対応できるように学んでいく。				
授業回	学習内容			備 考	
1	(1) 法制度の概要・法とは何か (2) 理容師免許の取得方法 【到達目標】法律とは何かを説明できる。理容師となった時に、法律とどう関わりを持つのか、法律の存在意義を知る。理容師免許を取得するまでの過程を説明できる。				
2	(1) 用語の定義 (2) 理容師免許制度 【到達目標】法律上「理容」や「理容所」がどういう意味であるかを的確に説明できる。理容師免許の取得後の扱いについて説明できる。				
3	(1) 理容師の守るべき義務 (2) 理容師に対する行政処分 (3) 管理理容師 【到達目標】理容師の負う義務について知るとともに、違反の種類によりどの処分がだされるかが理解する。管理理容師の仕事内容・資格の取得方法など管理理容師の全てを体系的に把握できる。				
4	(1) 理容所の開設 (2) 立入検査 【到達目標】理容所の開設の手順を説明できる。さらに開設後に行われる検査について説明ができる。				
5	(1) 開設者が負う義務 (2) 理容所以外の業務 【到達目標】開設者が負う義務とそれに対する処分を理解する。理容所以外で理容業ができる場合を説明できる。				
6	(1) 行政処分・罰則 【到達目標】誰がどのような違反をするとどの処分、罰則が出されるか、正確に答えることができる。				
7	(1) 行政機関・保健所・衛生行政 (2) 理容師法の知識のまとめ・総整理 【到達目標】保健所が行政機関としてどのように理容所に関わっているかを説明できる。次年度に向けて、理容師法の内容を総整理し、理容師法の内容を説明できる。				
8	学科試験				
到達目標	理容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター「関係法規・制度」				

学科	理容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理 (衛生管理技術)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	消毒法の長所・短所を知り、仕事上でも日常生活でも生かせるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	消毒の意義 「到達目標」 汚染・感染・発病・殺菌・消毒・滅菌・防腐の定義を知り、説明できるようになる。				
2	理容業務と消毒との関係 「到達目標」 理容師法・施行規則を完全に理解し、適切な消毒法を選択できるようになり、怠ったときの責任も知る。				
3	理学的消毒法各論 「到達目標」 紫外線消毒・煮沸・蒸気の特徴・長所・短所などを覚え適用できない物品を考えられるようになる。				
4	化学的消毒法各論 i 「到達目標」 アルコールなど各消毒薬の特徴・長所・短所を覚え、適用できない物品を考えられるようになる。				
5	化学的消毒法各論 ii 「到達目標」 前回同様、他の消毒薬の特徴・長所・短所を覚え、適用できない物品を考えられるようになる。				
6	すぐれた消毒法の条件 「到達目標」 優れた消毒の条件を理解し、適切な消毒法を選択できるようになる。				
7	器具の扱い方（メスシリンダーなど）・濃度計算練習 「到達目標」 メスシリンダーのメモリの読み方を理解し、濃度計算も確実にできるようになる。				
8	学科試験				
到達目標	消毒の様々な条件を鑑みて、適切な消毒法を選択できるようになる。また濃度計算も得意になる。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本理容美容教育センター「衛生管理(消毒法)」				

学科	理容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理 (公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	公衆衛生・環境衛生を学び、公衆衛生の維持・向上に役立てる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	微生物と人との関係・人の防御反応 「到達目標」 微生物の存在、および人の防衛力を知り、身を守るとともに人にレクチャーできるようになる。				
2	公衆衛生の歴史及び歴史上の人物 「到達目標」 公衆衛生の発展と、業績のある人物について学び、人の寿命と関係を説明できるようになる。				
3	保健・生活習慣病 「到達目標」 保険の仕組み・出生率・死亡率・平均寿命・生活習慣病を学び、如何に公衆衛生が必要か説明できる。				
4	生活習慣病・介護保険制度 「到達目標」 各生活習慣病の危険因子を学び、病気になるようにし、レクチャーできるようになる。				
5	環境衛生と人の適応 「到達目標」 空気成分や、有害物質の発生状況を知り、説明できるようになる。				
6	照明・冷暖房・上下水道の仕組み・廃棄物 「到達目標」 照明の在り方、冷暖房の健康との関係、浄水場の仕組みを学び公衆衛生の維持向上に役立てるようになる。				
7	衛生害虫・ネズミ 「到達目標」 衛生害虫やネズミの被害・駆除の仕方を学び公衆衛生に維持向上に役立てる。				
8	学科試験				
到達目標	公衆衛生の維持向上に寄与し責任も果たせるようになる。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本理容美容教育センター「公衆・環境衛生」				

学科	理容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理 (感染症)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	病原微生物の構造・毒性を学ぶとともに、感染経路などを知る、また各感染症の特徴を覚え、お客様にレクチャーできるようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	感染症発見の歴史・感染症の分類 「到達目標」 歴史上の人物の業績を知る、感染症の法律上の分類と、それぞれの特徴を学び、説明できるようになる。				
2	病原体の身体への侵入、媒介経路による分類 「到達目標」 空気・飛沫、飲食物、動物・節足動物、血液などを介している感染症なのかを理解し、説明できるようになる。				
3	病原微生物 「到達目標」 微生物の形、構造（毒性の存在）、環境の影響、増殖の仕方を理解し、日常生活に役立てられるようになる。				
4	感染症の予防 「到達目標」 感染の形態、常在細菌叢の分布、免疫、感染源・感染経路について学び、説明できるようになる。				
5	感染症各論 i 「到達目標」 結核・SARS・鳥インフルエンザ等空気・飛沫を介する感染症の症状・感染経路などを学び、説明できるようになる。				
6	感染症各論 ii 「到達目標」 印象句物・血液等・動物・節足動物を介して感染する感染症の症状感染経路などを学び説明できるようになる。				
7	具体的な対策 「到達目標」 標準予防策や症状のある客への対応を学び、実践できるようになる。				
8	学科試験				
到達目標	仕事上、自分自身を感染症から守り、人に説明もできるようになる。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本理容美容教育センター「感染症」				

学科	理容科	担当教員	齋藤		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	最終的には国家試験問題を全問正解することが目標であるが、それだけではなく、人体の構造を学ぶことにより理容人として、人間の美と健康に携わる職業であることの自覚を持ってもらう。また、自分の身体の健康や接客時のお客様との会話の中でも常識として理解を深める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	健康とはなにか？理容師が保健を学ぶ理由について考える。 【到達目標】 国家試験科目でもあるが、「人体」を理容師としてなぜ学ばないといけないかを理解する。				
2	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 1. 人体各部の名称 2. 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 【到達目標】顔のランドマークをしっかりと覚え、施術時の基準としても使用できるよう理解する。				
3	第2章 骨格器系 1. 骨の種類と構造 【到達目標】 人体の骨格の種類や骨の構造や働きを学ぶ。				
4	第3章 筋系 筋の種類と構造 【到達目標】 人体の筋肉の種類や筋の構造や働きを学ぶ。顔面の表情を作る筋を覚える。				
5	第4章 神経系 神経系の成り立ち 【到達目標】 人体の神経の種類や神経の構造や働きを学ぶ。				
6	第5章 感覚器系 【到達目標】 五感といわれる視覚・嗅覚・聴覚・味覚・平衡感覚について学ぶ。				
7	第6章 血液・循環器系 血液のあらまし 【到達目標】 血液の成分や働きを覚える。				
8	学科試験				
到達目標	国家試験に合格できる内容を学習				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本理容美容教育センター「保健」				

学科	理容科	担当教員	古 荘		
科目名	保健（皮膚）	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	30
教育目標・ ねらい	皮膚の構造について理解し、サロンでの施術、お客様への対応に活かせるようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	表皮の構造について 1				
2	表皮の構造について 2				
3	真皮の構造について				
4	皮下組織について				
5	皮膚付属機関について 1				
6	皮膚付属機関について 2				
7	免疫機能について				
8	皮膚と皮膚付属機関の生理機能				
9	皮膚と皮膚付属機関の保健				
10	皮膚と皮膚付属機関の疾患 1				
11	皮膚と皮膚付属機関の疾患 2				
12	皮膚科学総まとめ				
13	期末試験対策				
14	期末試験対策				
15	学科試験				
到達目標	国家試験に合格できる内容を学習				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	日本理容美容教育センター「保健」				

学科	理容科	担当教員	村田		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことを通して理容師・美容師に必要な化学的分野の知識習得を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1	導入、香粧品の定義：香粧品を取り扱うことにあたって必要な法律や注意点を学ぶ。 【基礎化学】物質の構成				
2	香粧品の取り扱い：保存や用法、適正な使用方法を学ぶ。【基礎化学】物質の量、溶解、コロイド				
3	水性原料、油性原料：香粧品の主原料となる成分の種類や特徴を学ぶ。				
4	界面活性剤：4種類の界面活性剤の特徴、使用用途を学ぶ。				
5	色材・香料：香粧品のアクセントとなる香料の原材料、色材の特徴や長所と短所を学ぶ。				
6	配合成分：香粧品の品質維持に必要な防腐剤・殺菌剤・紫外線吸収剤・酸化防止剤・収れん剤などについて学ぶ。				
7	ネイル・まつ毛エクステンション材料：近年増加してきたマツエクの注意点・安全性などについて学ぶ。 【基礎化学】酸・塩基				
	学科試験				

授業回	学習内容	備 考
8	基礎化粧品：洗浄用化粧品・化粧水・クリームや乳液の効果や成分について学ぶ。	
9	メイクアップ用化粧品：ファンデーションやアイメイクアップ用品の配合成分や分類について学ぶ。【基礎化学】酸化・還元	
10	シャンプー剤：頭皮毛髪の洗浄・健康維持のための用品についてシャンプー・リンス・トリートメントについて学ぶ。	
11	パーマ剤：パーマの手法とそこに用いる薬剤の効能・注意点を学ぶ。【基礎科学】酸化・還元	
12	ヘア・カラー：染毛の機序と染毛剤の種類とその特徴を学ぶ。	
13	特殊化粧品：スキンケアとしてのサンケア製品の特徴を学ぶ。	
14	芳香製品：香水やコロソなど、芳香製品の分類・特徴を学ぶ。	
	学科試験	
到達目標	理容師・美容師の通常業務における使用薬剤などの効能や手法などの知識習得	
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。	
テキスト	日本理容美容教育センター「化粧品化学」	

学科	理容科	担当教員	仲矢		
科目名	文化論 (理容文化論)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	理容師・美容師の仕事の中でお客様とのコンセンサスを得たうえで、技術を提供することは大変重要である。この文化論にはコンセンサスを得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在していることから、基本を知り、経験の中で理解を含めさせられるようにしていく。				
授業回	学習内容			備 考	
1	教科書オリエンテーション、文化論で何を学ぶか				
2	理容業・美容業の発生、ファッション文化史日本編				
3	中世の時代から江戸時代までの髪型と服装、				
	学科試験				
4	明治・大正・昭和前期までの髪型と服装について				
5	1945年から1950年代のファッション文化について				
6	1960年代以降のファッション文化について				
	学科試験				
到達目標	時代、時代における流行の背景やファッション文化について知識を深める。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	理容文化論（理容美容試験センター編）				

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	文化論 (ファッション学/理容色彩学)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	ファッションの基礎、歴史を学ぶことにより、理容美容とファッションがどう関係しており、どのように活かせるのかを学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・色の機能（色の持つ役割、機能）				
2	・光の性質（光、色と波長、スペクトル）				
3	・視覚系の構造と色、照明				
4	・色の心理的効果、視覚効果				
5	・マンセル表色系				
6	・色彩調和（自然から学ぶ配色、配色技法）				
7	・配色イメージ				
8	・ファッションにおける色彩				
到達目標	理容師としての専門的な知識だけでなく、お客様へのコーディネートのできる知識をファッションを通して身に着ける。				
評価方法	提出課題（作品）（80％）、リアクションペーパー（20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象とはしない。				
テキスト	各授業枚にテキスト用意。プロジェクター使用。				

学科	理容科	担当教員	畑 中		
科目名	運営管理	学 年	1年	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	ドメイン設定と理容室業界の損益計算の指標について 【到達目標】 ・ マーケティングとは何か、ターゲットを細分化して決めることが出来るようになる。 ・ 店舗の経費配分の比率が分かるようになる。				
2	貯金の大切さの周知と班別に創作したコンセプトの確認 【到達目標】 どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
3	班別に創作したコンセプトの確認（前回の続き） 【到達目標】 どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
4	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（前編） 【到達目標】 なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
5	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（中編） 【到達目標】 なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
6	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（後編） 【到達目標】 なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
7	班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（最終） 【到達目標】 なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
8	学科試験				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験する。特に1年生では差別化やコンセプト設定などの理解を深める。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター「運営管理」				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容技術理論	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1	理容技術の基礎	(1) 人体の各部の名称 (2) 理容技術における技術姿勢 (3) 理容技術とトレーニング 【到達目標】理容師として正しい姿勢での技術と人体の各部の名称を覚え使用することができる			
2	理容マッサージ	(1) マッサージの意義と効果 (2) 理容マッサージのマニピュレーション 【到達目標】マッサージ理論および手技と、その効果を説明することができる			
3	理容用具	理容用具の名称 ～ シザーズ、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー ～ 【到達目標】理容師が使う道具の名称を覚え、安全に操作することができる			
4	シャンプー＆リンス	(1) シャンプーイングの方法 (2) シャンプーイングの技法 (3) リンシング 【到達目標】シャンプー理論及び手法とその効果を説明することができる			
5	ヘアトリートメント	(1) ヘアトリートメントの種類 (2) ヘアトリートメントの一例 【到達目標】ヘアトリートメント理論及び手技とその効果を説明することができる			
6・7	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) デザインヘアのスタイル別カットシステム (3) デザインヘアカットの一例 【到達目標】スタイル別のヘアカッティング理論及びそのヘアスタイルの特徴を説明することができる			

授業時間数	学習内容		備 考
8	パーマネントセット	(1) パーマネントウェービング (2) ワインディング (3) アイアニング (4) デジタルパーマ 【到達目標】 パーマネントを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明することができる	
9	ヘアカラーリング	(1) 色彩の原理 (2) 染毛剤の種類と原理 (3) 染毛剤の安全性と取扱上の注意 (4) ヘアカラーリング技術プロセス 【到達目標】 ヘアカラーリングを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明す	
10・11	シェービング	(1) シェービングの要件 (2) シェービングの種類 (3) シェービングの基本技術と要領 (4) シェービングプロセス 【到達目標】 シェービングを安全に正しく施術できるように必要な理論及び技法を説明することが	
12	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア 【到達目標】 シェービング前後のお肌のケアについて正しく施術できるように必要な理論及び技法を説明することができる	
13・14	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) ヘアカッティングの一般手順 【到達目標】 ヘアカッティング理論及びそのヘアスタイルのデザインする上での技法とその特徴を説明することができる	
15	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。		
テキスト	「理容技術理論 1・2」（日本理容美容教育センター指定教科書）		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (基礎トレーニング)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	姿勢、立ち方、体の使い方、道具の名称、良い技術とは何かなど、あらゆる実技の基礎となる考え方を理解し、今後の実技に活かせるようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	基本姿勢、基本足位、準備運動、クロス畳み				
2 (4h)	ロングシザーズの持ち方、開閉、手入れ方法、用具理論「シザーズ」				
3 (6h)	ロングシザーズの持ち方、開閉、カット理論				
4 (8h)	ロングシザーズの持ち方、開閉				
5 (10h)	ミニシザーズの持ち方、姿勢、開閉、用具理論「シザーズ」				
6 (12h)	実習室の使い方				
7 (14h)	ウィッグの取り扱い方、手入れ方法、保存方法、2重ゴム				
8 (15h)	ロングシザーズ開閉チェック				
到達目標	1 分間、安定したロングシザーズの開閉が出来る				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (マッサージ)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	15
教育目標・ ねらい	①接客業の基礎（接客、距離感など） ②技術の基礎（手の使い方、体の使い方、移動方法、体重移動）③サロンワークの基礎（準備、技術のつなぎ、スムーズさなど）の理解				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	実習室授業のルール復習、クロス・タオル掛け、お客様お返しの手順確認、①軽擦法				
2 (4h)	②強擦法 ③母指球軽擦法 ここまでの通し				
3 (6h)	④手掌振動法 ⑤頸部揉捻法 ここまでの通し				
4 (8h)	⑥叩打法 ⑦頸部振動法 ここまでの通し				
5 (10h)	⑧軽擦法 ⑨圧迫引頸法 ⑩軽擦法 ここまでの通し				
6 (12h)	お迎えからお返しまでの一通りの工程確認				
7 (15h)	マッサージ技術チェック				
到達目標	理容マッサージ全10工程の技術を、無駄なくスムーズにこなせる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (マッサージ)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	30
教育目標・ ねらい	サイドシャンプーを通じ、技術の流れ、姿勢、適切で効率的な動き方、接客、手指の動きなどを修得する。後半はシャンプー、マッサージ、ブローまでの流れを修得。				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	ご案内～クロス・タオル掛け、リンシング前までの準備、シャンプー後～マッサージ前までの手順				
2 (4h)	適当に濡らし、ふき取り～ブローまで				
3～6 (12h)	リンシング～マッサージ～ブローまで				
7～9 (18h)	1stシャンプー、リンシング～ブローまで				
10～11 (22h)	1stシャンプー、リンス、リンシング～ブローまで				
12 (24h)	2ndシャンプー				
13～15 (30h)	ご案内～シャンプー全般～マッサージ～ブロー～お返しまでの流れ				
到達目標	実務実習にてシャンプーで入客できる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (シェービング)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	40
教育目標・ ねらい	レーザーを使いこなせる				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	シェービング理論、レーザーの持ち方3種類、運行練習、泡立て練習			1年次後期	
2 (4h)	腕剃り練習、ハンドマッサージ				
3 (6h)	ネックシェービング 資格試験ウィッグ、相モデル				
4 (8h)	スチームタオル、顔面処置 ウィッグ使用				
5～6 (12h)	顔面シェービング				
7 (14h)	ウィッグ使用 ネック～顔面シェービング～顔面処置までの流れ				
8～11 (22h)	実習室使用 相モデルでネック～顔面シェービング～顔面処置				
12～14 (28h)	額剃り、セカンドシェービング				
15～20 (40h)	顔面技術 反復練習				
到達目標	ネックシェービング、顔面シェービングがサロンレベルまで到達する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (ブロッキング)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	16
教育目標・ ねらい	ウィッグの扱い、濡らし方、スライスなど、ブロッキングの動きを完全マスターする				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	ウィッグの扱い方、濡らし方、センター2ブロック5分				
2 (4h)	カット用10ブロック 4ブロックまで5分				
3 (6h)	カット用10ブロック 8ブロックまで5分				
4 (8h)	カット用10ブロック 10ブロック作成と5分間チェック				
5 (10h)	ワインディング用10ブロック 6ブロック作成				
6 (12h)	ワインディング用10ブロック 6ブロック作成5分				
7 (14h)	ワインディング用10ブロック 10ブロック作成				
8 (16h)	ワインディング用10ブロック 10ブロック5分間チェック				
到達目標	カット用10ブロック、ワインディング用10ブロック 共に5分間で、ある程度のレベルまで作成出来る。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (セイムレイヤー)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	36
教育目標・ ねらい	「毛束を正確に引き出す」という、カット・ワインドなどの基本技術を修得する 鋏の開閉練習で培ったシザーズを操る力を実際のカットで発揮する				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	シザーズの持ち方、開閉の確認、カット用10ブロック5分間、第1ブ ロックよりセイムレングスでの指間刈り(22cm)。			No.1ウィッグ	
2～4 (8h)	10ブロックまで、順次セイムレングスでカット。全体22cm誤差 1 cm 以内。				
5～8 (16h)	カット用10ブロック、1回目と同様のカット技法で手順の短縮、時間 を早め、全体を20cm誤差1cm以内でカット。				
9～11 (22h)	ブロッキングを取らずに指間刈り。全体を18cm、16cm、14cmの3回 に分け、誤差を5mm以内にスムーズにカット。				
12 (24h)	セイムレイヤー「姿勢」実技試験 12cm				
13 (26h)	セイムレイヤー「仕上がり」実技試験 10cm				
14～18 (36h)	ミニシザーズ、カットコームでのセイムレイヤーカット 18cm			No.2レジーナワイ ンドウィッグ	
到達目標	指間刈りをマスター(誤差5mm以内でカット)する。 ロングシザーズ、ミニシザーズ両方とも使いこなす。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は 受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (セイムレイヤー)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	12
教育目標・ ねらい	質感調整の基礎、ショートヘアーのブロー基礎、スタイリング基礎を理解し、出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	質感調整の理解、チョップカット				
2 (4h)	スライドカット				
3 (6h)	ショートヘアーのブロー基礎、スタイリング剤の使用方法				
4 (8h)	フリースタイル風にブロー、スタイリング				
5～6 (12h)	ブロー＆スタイリング試験				
到達目標	ショートのセイムレイヤースタイルを、立体感、毛の流れ、毛先の表情などを表現しながら40分間でブロー、スタイリングが出来るようにする。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論１・２」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (メンズスタイル・ショート)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	14
教育目標・ ねらい	すくい刈り、刈り上げなど、ショートグラデーションカット技法を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1～2 (4h)	縦スライスと横スライスのグラデーションの違いについて 横スライスのグラデーションカット (エレベーション)基礎				
3 (6h)	横スライスのラウンドグラデーションカット				
4～5 (10h)	すくい刈り基礎、すくい刈りによるショートグラデーションカット				
6～7 (14h)	刈り上げ基礎、刈り上げスタイル				
到達目標	すくい刈り、連続刈りが出来る				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (基礎ブロー)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	20
教育目標・ ねらい	①レザーカット技法の理解と修得 ②ショートヘアーのブローテクニック理解と修得				
授業回	学習内容			備 考	
1 (2h)	カットレザーによるスカルプチャーカット				
2 (4h)	ショートスタイルのブロー基礎① つむじ中心の爆発スタイル				
3 (6h)	ショートスタイルのブロー基礎② つむじ中心のナチュラルスタイル				
4～5 (10h)	ブロー基礎③ 天頂部を使用したボンバージュセット				
6～7 (14h)	ブロー基礎④ モヒカン風立ち上げスタイル				
8～10 (20h)	ブロー基礎⑤ ブロー＆スタイリング練習				
到達目標	ショートの髪をブローで自由自裁に操ることができる 整髪料（ワックス・ミストなど）の使用方法を修得し、自由にスタイル作成できる				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (ワンレングスカット・インサイドグラデーション)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	30
教育目標・ ねらい	デザインカット(ジオメトリックカット)基礎。カットとブローとの関係の理解、ドライヤーの使用方法基礎など。				
授業回	学習内容			備 考	
1～4 (8h)	ワンレングスカット1回目（キャップ下6cm）				
5～7 (14h)	ワンレングスカット ブロー				
8～11 (22h)	ワンレングス2回目(キャップ下4cm) カット＆ブロー				
12～13 (26h)	ワンレングスカット＆ブロー試験（キャップ下2cm）				
14～15 (30h)	インサイドグラデーション カット＆ブロー				
到達目標	デザインカット基礎理論、カット姿勢など、今後のデザインカットのベースが出来ていること、「ワンレングスカット」と「ワンレングススタイル」違いを理解する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論１・２」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (グラデーションカット・ブロー)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	42
教育目標・ ねらい	グラデーションの仕組みを理解することにより、自分の思い通りの段差をつけることが出来るようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1～2 (4h)	縦スライス バックのみにグラデーションが入ったスタイル				
3～4 (8h)	縦スライス 1 パネル後ろに合わせて引き出したOD（オーバーダイレクション）スタイル				
5～6 (12h)	斜めスライス 1 パネル後ろに合わせて引き出したODスタイル				
7～10 (20h)	グラデーションボブ 姿勢試験 仕上がり試験				
11～13 (26h)	セニングカット理論&実習 ブロー				
14～17 (34h)	ブロー、スタイリング試験				
18～21 (42h)	ジオメトリックスタイル（アシンメトリー）カット&ブロー				
到達目標	グラデーションボブスタイルのカット&ブローが出来る様になる。 スタイル写真を見れば、どの程度のグラデーションか、どう切っているか分かる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (ミディアムカット)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	15
教育目標・ ねらい	理容師資格試験スタイルの理解及びカット技術修得				
授業回	学習内容			備 考	
1～3 (6h)	ウィッグ① ミディアム資格試験スタイル プレカット				
4～5 (10h)	ウィッグ① ミディアム資格試験スタイル				
6～7 (14h)	ウィッグ② ミディアム資格試験スタイル プレカット及びミディアムスタイル				
8 (15h)	実技試験				
到達目標	レディースウィッグで理容師資格試験ミディアムロングスタイルを25分間でカット出来る				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (ワインディング)	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間	74
教育目標・ ねらい	ワインディングの基礎としてCライン巻きを中心に修得。その後は「パーマ」に向け、必要な手技や手順、理論などを総合的に修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～4 (8h)	1本～数本をキレイに巻く 上巻き			No.2ウィンドウ イッグ使用	
5～7 (14h)	1本～数本をキレイに巻く 下巻き				
8～12 (24h)	センターを、1本のキレイさ、正しい配列を保ったまま、ある程度早く巻く(目標10分)				
13 (26h)	ブロッキング5分 センター巻き15分(進行状況により変わる可能性あり) 実技試験				
14～16 (32h)	キレイ巻き ブルーロッド				
17～20 (40h)	キレイ巻き 全頭巻き				
21 (42h)	キレイ巻き 実技試験				
22～36 (72h)	全頭巻き ブロッキング5分 ワインディング25分				
37 (74h)	全頭巻き ブロッキング5分 ワインディング25分 実技試験				
到達目標	Cライン巻きはブロッキング5分、巻き25分で、ある程度以上のレベルで完成。デザイン巻き3種類修得、ウィッグと人間のパーマの違いを理解、パーマ手順修得				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」(日本理容美容教育センター指定教科書)				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目:各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 スタイリストコース（コース選択）	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	121
教育目標・ ねらい	ヘアデザインに必要な応用する力と想像力を高めるために必要な基礎的知識、技能を修得する。 またヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにすることができる				
授業回	学習内容			備 考	
1～10	ロングレイヤー（メンズスタイル） 【到達目標】レイヤーカットの特徴である毛先の動きや毛流れなどの質感を表現出来るようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。				
11～20	ミディアムカット（メンズスタイル） 【到達目標】レイヤーとグラデーションの技術を組み合わせてヘアスタイルをより立体的な表現ができるようになる為にヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。				
21～30	ツーブロックスタイル（メンズスタイル） 【到達目標】グラデーションカットの特徴であるウェイトをコントロールし、バランスのとれたスタイルを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにブローセット理論・技術を習得する。				
31～40	ミディアムカット（国家試験スタイル） 【到達目標】国家試験合格レベルのミディアムカットを仕上げる為に必要なヘアカッティング理論とスタンダードカット技術（基礎刈り、仕上げ刈り、セニングカット）学び合う。				
41～50	フェードスタイル 【到達目標】フェードカット スタイルの特徴である美しい刈り上げの色彩と、シルエットを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論とスタンダードカット技術、ならびにブローセット理論・技術の習得。				
51～61	トレンドカット 【到達目標】ヘアスタイルにおけるトレンドポジションを理解し、そのイメージに合わせたヘアスタイルをデザインするためにアウトラインやテクスチャー、ディテールカットの理論および技術を習得する。				
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにすることができる				
評価方法	作品のポートフォリオとスタイルの展開図をまとめたものを作成し、ファイルに取りまとめたものを評価する。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	教科書：理容技術理論1.2 公益社団法人日本理容理容教育センター指定教科書				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 シェステコース（コース選択）	学 年	1	実施時期	前・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	121
教育目標・ ねらい	女性に施術することを目的としたシェステ(=シェービングエステ)の基礎的知識、技能を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1～30	フェイシャルエステ 【到達目標】 Ajesthe認定フェイシャルエステティシャン合格を目指し、エステティック理論・フェイシャルエステティックの基礎知識と技術を習得する。				
31～61	ブライダルシェービング 【到達目標】 ブライダルシェービングの基礎知識と、デコルテ・背中・腕・指などの各部位のシェービング理論・および技術を習得する。				
到達目標	お客様一人ひとりの肌質の理解やフェイシャルマッサージなどの手技、化粧品やパックなどの選定ができるようになる。 またブライダルシェービングにおける注意事項や、お客様の肌質やドレスラインに合わせたシェービングの提案、カウンセリング・アフターケアアドバイスが出来るようになる。				
評価方法	Ajesthe認定フェイシャルエステティシャン合格（学科試験・実技試験） なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	Ajesthe認定フェイシャルエステティシャン教科書				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	理容実習 (実務実習)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	① 業界理解を深める為、実際の現場で業務の流れを学ぶ ② 主体的に仕事に取り組む姿勢を学び、仕事の優先順位を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1～10	実務実習 【到達目標】理容サロンのスタッフとして、アシスタント業務を遂行し、理容師としての職業観を深めていく 今後、サロンで活躍する為に必要な知識や技術、人間力などの課題を明確にし、能力向上に向けて計画を立てられる				
到達目標	学内で学んだ知識と技術を活かし、現場で「お客様」にはならず、どんな役割でもきちんとこなし、スタッフに愛され、重宝される存在として、存在価値を認めてもらえる人間となる				
評価方法	実習日誌により評価。なお、所定授業時間数(全体の4/5)を下回る学生は評価を受けることができない				
テキスト	実習日誌（配布）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（造形学）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	22
教育目標・ ねらい	マーケティングを基にブランドデザイン開発を実施。お客様に対して店のコンセプトやメッセージを視覚的な情報として伝える。店のロゴマークや店舗デザイン、ユニフォームやパッケージデザインなど付帯するデザイン開発を実施。				
授業回	学習内容			備 考	
1	“ブランディングデザイン” -1：ブランディングデザインとは何かを知る。 【到達目標】 ブランド価値を高めるための理解			●プリント配布 ●ノート、筆記具持参	
2	“ブランディングデザイン” -1：ブランディング補足内容及びイメージ抽出 【到達目標】 グループ内でのイメージの共有化及び具体策			●筆記具持参	
3	“ブランディングデザイン” -1：ブランディング具体案制作 【到達目標】 店舗のコンセプト作り（店名）、設置場所、他店との差別化			同上	
4・5	“ブランディングデザイン” -2：店舗レイアウト制作 【到達目標】 店舗レイアウト制作及び付帯するデザイン開発			●ノート、筆記具持参 ●方眼紙	
6・7	“サロンデザイン -1”：立体模型製作開始 【到達目標】 平面図面から立体模型に移行作業			同上	
8-10	“ブランディングデザイン開発プログラム”：プレゼン準備 【到達目標】 各科目との最終調整				
到達目標	自分の店を持つにあたり既存の枠を超えた店舗開発が必然的になってきます。お客様を日常生活から居心地の良い非日常空間へ誘うマジックがこのブランディングデザインに隠されています。デザインを楽しんで頂き将来の糧にしてください。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象とはしない。				
テキスト	プリント配布				

学科	理容科	担当教員	永岑		
科目名	理容美術（店舗設計）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	8
教育目標・ ねらい	店舗設計を通じて、お客様（社会）が求めるサロンを自らが考える力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	最新の店舗デザインと理美容業界のマーケティング				
	【目標】様々な店舗を知り、将来造りたい（勤めたい）サロンをイメージする				
	【目標】理美容業界の過去の変遷を学び、今後の社会が望むサロンづくりを考える				
3・4	店舗に関わる法的概要と店舗レイアウトの考え方				
	【目標】理美容師法を理解し、開業時に必要な事項を身に付ける				
	【目標】行動学・心理学に基づき、儲かる店のレイアウトの考え方を身に付ける				
5・6	色と光（照明）の基礎知識と演出手法と各講義の理解度テスト				
	【目標】色は光によって見え方が変わり、技術がより良く見える演出手法を身に付ける				
7・8	最新サロンの事例紹介とブランディング開発プログラムに向けた店舗イメージの構築				
	【目標】自ら考えるサロンをプレゼンテーションするスキルを身に付ける				
到達目標	各講義の基礎知識を身に付け、ブランディングデザイン開発プログラムに向けた店舗デザインイメージを構築する☑				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	パワーポイントでの映像およびプリント				

学科	理容科	担当教員	池田、吉田		
科目名	表現技術（OA）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	14
教育目標・ ねらい	具体的な店舗企画開発をチームで創出・プレゼン発表することにより、技術者本位ではなくお客様目線でのサロンサービスとは何か、その本質を知り得る。				
授業回	学習内容			備 考	
1	ウインドウズ基本操作のネット活用読み解く 【到達目標】ウインドウズを使用しパソコンの使い方に慣れ、Word・Excel・PowerPointの特性を理解し操作することができる。				
2	・パワーポイントの基本操作 （スライド作成、編集、画像の挿入、アニメーション設定） 【到達目標】架空のヘアサロンをプレゼンテーションするための資料を作成することができる。				
3	①何のためにプレゼンするのか、プレゼンの構成を考える。 ②テンプレート書式から発表用のスライド構成を組み立てる。 【到達目標】自分本位のプレゼンではなく、誰が得する発表なのかを理解できる。			少人数 グループワーク	
4	①伝わるスライドづくり、資料のブラッシュアップ。 ②提案サロンの強み、メニューの魅力、顧客のメリットを言語化。 【到達目標】単なる資料の読み上げでないこと、ライブ発表ゆえの意義を正しく理解できる。			少人数 グループワーク	
5	①プレゼンの実践：第一回目、発表の原稿づくりとフィードバック。 ②スライドごとの抑揚、一番伝えたいことを明確化。 【到達目標】発表の実際を知る。人にどう伝わっているのか、意見や指摘を受け入れ、次回までに改善できるようにする。			グループワークと模 擬発表	
6	①プレゼンの実践：第二回目、要点の絞り込みとフィードバック。 ②改善点を活かし、制限時間内での発表、内容を要約する。 【到達目標】本番通りの会場、マイクを使い、つかみ・本題・まとめの話し方ができる。自分の企画に自信をつける。			グループワークと模 擬発表	
7	①プレゼンの本番：役割分担、時間配分、効果的な見せ方を愉しむ。 ②他グループの模擬審査と最終的なフィードバック。 【到達目標】人前でも堂々とワクワクしながら発表できる。礼節を持ったプレゼンテーションができるようになる。			プレゼン発表	
到達目標	理容の魅力が正しく伝わるプレゼンテーション力を身につける。夢のサロン企画を通して、実社会から求められる店舗のあり方を体得する。				
評価方法	プレゼン発表資料の見やすさ、伝わりやすさ、企画内容のわかりやすさ、発表時の態度、言葉遣い、そのプレゼンテーションを通して「心が動かさせるかどうか」				
テキスト	吉田昌央術式「プレゼン力を身につける」スライド資料の提供 社会一般の突出した「サロンサービス事例集」を題材に「型」を理解				

学科	理容科	担当教員	漆原		
科目名	表現技術（簿記）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	16
教育目標・ ねらい	サロン経営に必要な財務的視点の習得				
授業回	学習内容			備 考	
1	・簿記の基本的な考え方、勘定科目について 【到達目標】資産・負債・資本・収益・費用に属する勘定科目に関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
2	・財務三表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要） 【到達目標】簿記の基礎的事項である借方・貸方の意味を理解し、損益計算書・貸借対照表の体系を把握し、正しく説明することができる。				
3	・収益構造（店舗経営における、財務的視点） 【到達目標】収益・費用の種類と認識・測定の基準を学習し、様々な形態の収益について、実現主義を適用する際の工夫や実現主義の例外として利益に発生主義や現金主義を適用する例を理解し、正しく説明することができる。				
4	・損益分岐点（損益分岐点及び不随する事項における店舗経営の実例） 【到達目標】損益計算書の意義を理解し、作成方法を理解し表にすることができる。				
5	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成） 【到達目標】キャッシュフロー計算書の目的と構造をに関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
6	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成） 【到達目標】営業活動によるキャッシュフローの区分の記入法に直接法と間接法があり、これらを比較することにより、計算書に関する知識を深く学習し、正しく説明することができる。				
7	復習				
8	グループワーク				
到達目標	グループごとに店舗の収益構造・価格設定・事業計画策定をしっかりと理解できるようになる				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	授業毎にプリント配布				

学科	理容科	担当教員	井川		
科目名	ビジネスマインド (理容広告・宣伝)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ねらい	現代社会は、デジタル化が急速に進み、人々の価値観やライフスタイルが多様化しています。美容業界においても、技術力に加え、情報を効果的に発信し、届ける力が成功の鍵となっています。多様なニーズに応えるためには、生成AIやクラウドなどのテクノロジーを活用しながら、柔軟に対応できる力が求められています。本授業では、マーケティング思考、デジタルリテラシー、SNS運用、ブランディング、データ分析、動画編集・デザインスキルを学び、自己PRツール（ポートフォリオ）を作成します。自分の強みを最大限に活かし、未来の可能性を広げる力を養います。				
授業回	学習内容			備 考	
1	【第1回：情報活用能力の向上】 ～デジタルスキルを磨く～ デジタル化のデジタル化の重要性を理解し、各種ツールを効果的に活用するための基礎を学びます。具体的にはクラウドアプリの活用、情報リテラシーの向上、SNSを使ったコミュニケーション技術など、デジタルを活用した顧客対応スキルを磨きます。また、生成AIを仕事や日常生活に役立てるための基本的なプロンプトを学び、その応用方法を考えます。さらに、情報漏洩などのリスクマネジメントの重要性を理解し、安全にデジタルツールを利用するための知識も習得します。			[参考資料] 東洋経済「業界地図」、ベネッセ「美容業界データ」、Googleアプリ	
2					
3	「第2回：広告とマーケティング」 ～行動科学～ マーケティング基礎として、STP分析、4P戦略、広告の種類と特徴、ターゲット設定とペルソナ作成を学びます。顧客の行動原理を理解する「行動科学」を取り入れ、行動経済学や心理学などの知見を応用した購買意欲を高める施策を学びます。演習では、架空のサロンを題材に、マーケティングプラン作成、広告立案、グループワークによる広告コンセプト発表を行います。			「お客を虜にする7つのトリガー」サリーフォッグスヘッド、 「影響力の武器」ロバートチャルディーニ	
4					
5	【第3回セールスライティング】 ～伝える力～ 顧客の行動を促すための「セールスライティング」スキルを習得します。セールスライティングの基本原則、ターゲットに響く言葉選び、キャッチコピー作成、ストーリーテリングを学び、実践的なライティングスキルを磨きます。演習では、学校ホームページのキャッチコピーやリード文作成、グループワークではセールスレター作成などを行います。			「セールスライティング」レイ・エドワード	
6					
7	【第4回：動画コンテンツ制作】 ～ショートムービー～ スマホで簡単に作成できるショートムービーの制作を学びます。iMovieやCapCutを使用して、学生自身が考える「未来の美容師像」や「美容サービスの魅力を伝える」テーマで、短い動画を制作。ペルソナ設定やターゲット層を意識したコンテンツ作り、ストーリーテリングの手法を取り入れ、視聴者に響く映像表現を学びます。制作したショートムービーをクラス内で発表し、投票によるコンテスト行う予定。			iMovie、capcut、etc	
8					

授業回	学習内容	備 考
9	「第5回ポートフォリオ作成」～将来を見据えたキャリアプラン～ 美容業界の動向を考察し、将来を見据えたキャリアプランを策定します。授業記録や作品等の成果物を整理・収集し、データに基づいた自己PRに繋がるポートフォリオを作成。クラウド保存したポートフォリオは、関係者からのフィードバックを受け改善し授業の振り返りや就職活動に活用します。	グーグルアプリ 又は Canva
10		
到達目標	デジタルスキル: クラウドアプリの活用や情報リテラシーの向上など、現代社会で必要なデジタルスキルを習得できます。 マーケティングスキル: マーケティングの基礎知識を習得、顧客の購買意欲を高めるための効果的なアプローチができる。 セールスライティング: 基本を理解、ターゲットに響く言葉で効果的に情報を伝えることができる。 動画コンテンツ制作: 動画コンテンツ制作スキルを習得、情報発信の幅を広げることができる。 キャリアプランニング: 自己PRに繋がるポートフォリオを作成、就職活動で活用できる。 ※上記5つのスキルを習得することで、美容業界で活躍するための基礎を築き、将来のキャリアプランを具体的に描くことができる。	
評価方法	単元の終了時に実施するオンラインでの小テスト	
テキスト	前日にメールで送信する資料（A4 2 頁程度）	

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	ビジネスマインド (ビジネスマナー)	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	社会的コミュニケーションの基礎となる相手への気配り・心配りの意義を深く理解する。 そして、それを形として表現するための各種技法の意味を理解し、適切に実践できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」 【到達目標】→職業人としての自覚を芽生えさせる。			ビジネス マナーテキスト p1～2	
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】→『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネス マナーテキスト p9～13	
3	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」 時間意識 納期意識 健康意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナーテキスト p5～6	
4	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック・、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】→職業人（美容師）としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネス マナーテキスト p3.p17 ～24	
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】→良質なコミュニケーションを築くための基本マナーを知る。 加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。			ビジネス マナーテキスト p4.7～ 8	
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3PDCA」 【到達目標】→職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネス マナーテキスト p51～ 54	
7 (6時間)	宿泊オリエンテーション				
8 (6時間)	宿泊オリエンテーション				
9	宿泊オリエンテーション 振り返り LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 目標意識 顧客意識			ワークシート テキスト P5～6	
10	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 協調意識 改善意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナーテキスト p5～6	
11	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」 品質意識 コスト意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるようにする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナーテキスト p5～6	

授業回	学習内容	備 考
12	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方とマナー」 【到達目標】 →守るべき行動規範を理解し、社会の一員としてモラルを守って生活することができる。	ビジネス マナーテキスト p 55～56.68～69
13	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】 →接客マナーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネス マナーテキスト p 25～40
14	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】 →接客マナーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネス マナーテキスト p 25～40
15	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応① 「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】 →接客マナーを習得し、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 41～49.70～71
16	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応② 「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】 →接客マナーを習得し、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 41～49.70～71
17	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー① 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】 →ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 56～67
18	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー② 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】 →ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 56～67
19	実務実習事前指導	ワークシート グループワーク
20	実務実習事後指導	ワークシート グループワーク
21	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③ 「6-9 手紙の書き方」 【到達目標】 →ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 64～67

授業回	学習内容	備 考
22	就職活動（サロン説明会、サロン見学など）にて、先方に訪問した際の演習① ・「振る舞い」 ・「表情」 ・「言葉遣い」	
23	就職活動（サロン説明会、サロン見学など）にて、先方に訪問した際の演習② ・「質問」 ・「インタビュー」 ・「聴く」	
到達目標	実務実習・学外実習等、学外で店舗顧客と相対する際、学んだ知識、技術そして心構えを適切に活かして顧客からの信頼を得ることができる。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナーテキスト	

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	ビジネスマインド (サロン説明会)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	理容師としてのキャリアを早期に考える事で学ぶ目的が明確化し、実務実習に向けて、計画を立て行動していくことをねらいとする				
授業時間数	学習内容			備 考	
1～7	〈サロン説明会〉 様々な業態の理容サロンを招き、各サロンの特徴を知る。このことを通して理容サロンの幅広い業態ならびに理容業界の理解を深める。				
7	〈サロン説明会報告会〉 グループワークを通して各サロンの説明内容をまとめ、各自がサロンレポートを作成する。				
8～10	〈就職指導〉 ・履歴書の書き方 ・就職内定までの計画の立案と実行と修正 ・内定のお礼状の書き方				
到達目標	各サロンの説明内容から、自身のキャリアプランから逆算して、自分の将来像に適していると思う実務実習先を自分で決めることができる				
評価方法	課題提出のサロンレポートにて評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	サロンレポート「1.2」				

学科	理容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合理容技術理論 (毛髪化学)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	現場に必要な知識と技術を実習を通して学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	スタイリング剤種類とテクスチャー			4コマ	
2	トリートメント技法の習得とUVについて			4コマ	
3	カラー理論 ブリーチ実習 ウィックでデザイン			3コマ	
4	カラー理論 ブリーチ実習 ウィックでデザイン			4コマ	
到達目標	トータルデザインのできること。また、スタイルを作るセンスと再現性のあるスタイリング剤のチョイスができること。				
評価方法	リアクションペーパー・小テスト（20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	高度総合理容技術実習 （香粧品の製法）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	12
教育目標・ ねらい	理容師としての基礎知識（香粧品化学と連動）の集積の為、各製剤の特徴や作用の仕組み や処方の構成を理解する事を目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	①シャンプーについての講義 ②シャンプーの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
2	①ヘアトリートメントについての講義 ②トリートメントの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
3	①ヘアスタイリング剤・エアゾール講義 ②ヘアグリース・ヘアオイルの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
4	①染毛剤についての講義 ②ヘアマニキュア・ヘアブリーチの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）				
到達目標	①各香粧品の内容物の成り立ちや使用目的を把握し説明可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③各製剤の配合物の種類や量による性能の差異を香粧品化学の講義と連動し説明可能にする。				
評価方法	・各期実験レポート（80点満点）、及び筆記小テスト（20点満点）で評価する。なお所定授業時間 数（全体の2/3）を下回る学生は受験する事ができない。				
テキスト	香粧品化学教科書 授業毎にプリント（処方）配布				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は35年以上の化粧品製造会社の技術職勤務経験を踏ま え、実験を主体に、サロン現場で必要となる化学知識の習得を目的とした授業を行う				

学科	理容科	担当教員	池田		
科目名	高度総合理容技術実習	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	138
教育目標・ ねらい	身に付けた理容技術の基礎的知識、技能をより実践的な場で学習することにより、ビュー ティークリエイターとして必要な応用力と想像力を高める。				
授業回	学習内容			備 考	
1～9	実務見学 【到達目標】理容サロンを見学することで業態の違いを知るとともに、実際の サロン業務の流れを知るとともに、サロンで活躍する為に必要な知識や技 術、人間力などの課題を明確にし、能力向上に向けた計画をたてられる				
10～29	メンズスタイル・アイロンパーマ 【到達目標】3つのヘアスタイルを通じてヘアスタイルのデザイン別に合わせ たカット理論、技術を習得する				
30～49	美翔祭 【到達目標】学園祭にて、お客様への最高のサービスを提供できるよう、今 までの学習成果を発揮する				
50～69	匠すと・コンテスト対策 【到達目標】校内コンテストにて、自分の得意な競技に出場し、今までの学 習成果を発揮する				
到達目標	理想の理容師像に向かって、自ら必要な能力（知識、技能、人間力）を向上する為に、自 分で計画を立てて学習していくことができる。				
評価方法	課題提出にて評価する				
テキスト					
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				